

# 月刊 しばうら

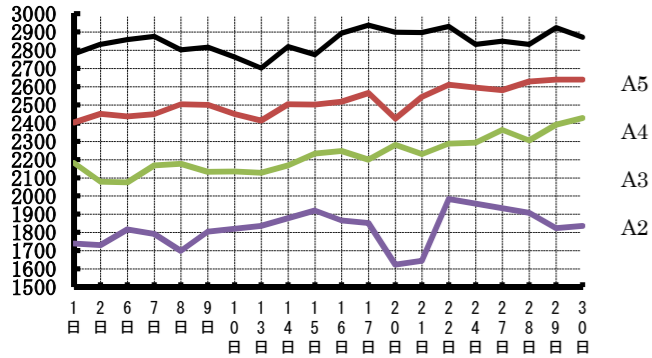
## 2017年12月号

### 大動物事業部

#### <11月の相場動向>

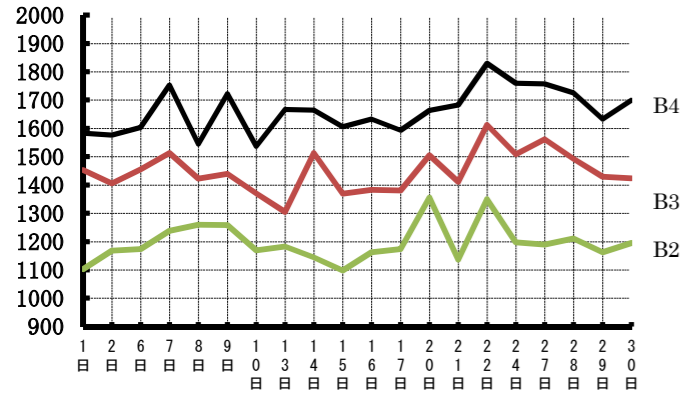
11月の牛枝肉相場は、和牛去勢 A5 が前月比 39 円高の 2,852 円(前年同月比 63 円安)、同 A4 が 187 円高の 2,528 円(同 120 円安)、同 A3 が 190 円高の 2,216 円(同 240 円安) 同 A2 が 74 円高の 1,819 円(同 402 円安) 交雑種は去勢 B4 が 14 円高の 1,652 円(同 153 円安)、B3 が 37 円高の 1,433 円(同 223 円安)、B2 が 18 円高の 1,175 円(同 290 円安)となり、和牛は前月の軟調から一転して 3・4 等級で上伸。中旬以降からは気温低下が本格化したことや年末に向けた手当て買いが動き出したことなどから、全般的に堅調な相場展開となった。

#### 和牛去勢 日別相場表(11月)



和牛去勢	月平均	前年同月比	前月比
A5	2,852 円	97.8%	101.4%
A4	2,528 円	95.5%	108.0%
A3	2,216 円	90.2%	109.4%
A2	1,819 円	81.9%	104.2%

#### 交雑去勢 日別相場表(11月)



交雑去勢	月平均	前年同月比	前月比
B4	1,652 円	96.4%	99.0%
B3	1,433 円	94.5%	98.5%
B2	1,175 円	90.9%	96.8%
乳牛去勢	月平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	—	—
B2	1,026 円	94.1%	101.1%

#### <12月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計によると、10月の輸入牛肉通関量は前年同月比 5.0%増の 4万3,346 t で、フローゼンは 11.9%減となった反面、チルドは 27.9%増となった。

農畜産業振興機構の予測による 12 月の牛肉輸入数量は、前年比 0.1%増の 4 万 5,100 t と予測している。チルドは出荷頭数の増加を背景に米国産の輸入量の増加が見込まれ、1.7%増の 2 万 3,500 t。フローゼンは在庫を調整する動きもみられるとしているため 1.2%減の 2 万 1,700 t と予測している。

輸入牛肉通関量		10月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,626	7,767	123.9%
	米国	11,651	8,831	131.9%
	その他	1,120	914	122.5%
合計		22,397	17,512	127.9%
フローゼン	豪州	11,306	13,667	82.7%
	米国	7,490	7,351	101.9%
	その他	2,153	2,751	78.3%
合計		20,949	23,769	88.1%

単位：t 出典：食肉速報

#### <12月の全国出荷頭数予測>

食肉流通統計による 10 月の全国の成牛と畜頭数は、前年同月比 2.9%増の 9 万 503 頭となり、内訳をみると和牛は 3.2%増の 3 万 7,225 頭、交雑種は 9.2%増の 2 万 1,042 頭、乳用種は 0.3%減の 3 万 1,453 頭であった。

農畜産業振興機構による 12 月の出荷予測頭数は、前年比 2.6%増の 9 万 8,700 頭と予測している。品種別にみると和牛は 2.5%増の 4 万 5,600 頭、交雑種は 8.2%増の 2 万 2,700 頭、乳用種は 1.1%減の 2 万 9,000 頭としている。また、需給予測と合わせて、平成 29 年 10 月～30 年 3 月までの牛と畜頭数見込みについて公表した。全品種では前年同期 0.3%増を見込んでいる。品種別にみると和牛は生産基盤の回復に伴う出生頭数の増加により、同 0.3%増、交雑種は酪農家における乳用牛への黒毛和種交配率の上昇により増加が続いており、同約 4%増と見込んでいる。乳用種は酪農などにより生乳生産基盤の縮小や、酪農家における乳用牛への黒毛和種交配率の上昇により同約 4%減と予測している。東京食肉市場の 12 月のと畜頭数は 8,400 頭を予定している。

#### <12月の牛枝肉相場見通し>

今年は、昨年よりも年末手当て買いが早く 11 月後半から動き出し、そして今月からは年末年始の手当てが本格化する時期に入り引き続き、和牛・交雑種の 3・4 等級を中心に枝肉相場は高値基調で推移することが予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,850～2,950	B4	1,700～1,800
A4	2,600～2,700	B3	1,450～1,550
A3	2,300～2,400	B2	1,200～1,250
A2	2,100～2,200		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,200		
B2	1,000～1,100		

### 小動物事業部

食肉流通統計によると、10月の全国と畜頭数は 142 万 7,636 頭(前年同月比 104%)となり前年より増加した。

また、10月分の豚肉通関実績は、総量で 7 万 8,481t(前年同月比 112.4%)と前年同月から 2 ケタ増しとなった。うちチルドが 3 万 3,124t(同 115.9%)で内訳は、米国が 1 万 6,765t(同 105.6%)、カナダは 1 万 5,407t(同 131.5%)の増、メキシコが 946t(同 95.2%)となった。フローゼンも 4 万 5,357t(同 109.9%)と前年を上回り、デンマークが 1 万 354t(同 102.7%)、スペインが 9,053t(同 138.9%)、メキシコが 6,877t(同 123.7%)、米国が 4,240t(同 82.4%)、カナダが 2,671t(同 66.8%)とスペイン、メキシコが大幅に増加しカナダ、米国が大幅に減少した。

#### <11月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	69,600	567	551	898
2日	71,500	592	581	1,110
6日	66,700	538	519	780
7日	68,200	550	527	960
8日	68,400	536	514	852
9日	70,200	538	521	903
10日	69,600	542	523	958

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 9,171 頭と前年を上回る頭数となり、当市場においては平均 923 頭であった。2 日と 9 日は全国頭数 7 万頭超えとなり相場も 500 円台をキープする底堅い展開が続いた。11 月に入り鍋物などの冬物商材の需要が高まっていることもあり、バラなどを中心に荷動きは堅調だ。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	65,000	531	509	799
14日	69,200	553	523	857
15日	67,500	563	538	653
16日	70,400	566	554	823
17日	69,200	576	572	825
20日	69,900	586	576	652
21日	70,900	639	620	956
22日	72,600	614	579	876

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 9,337 頭と前年をやや上回った。

上物相場は 500 円台半ばから 600 円台の相場が続いていたが末端での需要は鈍くバラを除いて全体的な荷動きは軟調な展開となっている。チルド、フローゼン共に在庫量は潤沢とは言えない状況が続いており、中部位は締まった状況にある。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	69,500	641	621	984
27日	66,300	640	607	873
28日	69,400	618	581	890
29日	68,700	607	584	716
30日	68,700	600	568	824

下旬の全国と畜頭数は、23 日が祝日ということもあり 6 万頭後半が続いたが本格的に全国頭数が増えてきた感じではなく、平均 6 万 8,520 頭と前年を下回った。

例年、年末を前にした 11 月下旬は相場が緩む時期だが上物価格 600 円を上回る異例の高値が続いた。

ただ、本格的な年末の手当てについては 12 月に入ってからとみられる。

#### <12月の豚枝肉相場見通し>

農水省による 12 月の全国と畜頭数は、151 万 5,000 頭(前年同月比 102%)と予測しており、一日当たりの頭数は約 6 万 9,000 頭(22 日換算)である。当市場の 12 月の集荷予定頭数は 1 万 8,500 頭となっており、一日当たりでは約 880 頭の見込みである。当市場の 12 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 1 万 8,500 頭となっており、一日当たりでは約 880 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると 12 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 3,800t(前年同月比 100.3%)の予測となっている。内訳はチルドが 3 万 2,600t(同 103.3%)、フローゼンは 4 万 1,200t(同 98.1%)の予測である。

また 9 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 5,228t(前年同月比 86.6%)、輸入品は 15 万 5,825t(同 102.7%)となり合計 17 万 1,053t(同 101%)となった。推定出回り量は 14 万 9,259t(前年比 98%)で前年を下回った。うち国産品は 7 万 667t(同 96.8%)輸入品は 7 万 8,592t(同 99.2%)であった。国内生産量は 7 万 286t(同 96.1%)と前年を下回った。

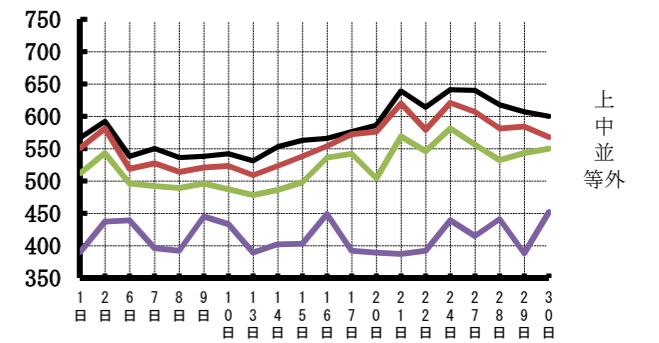
例年 11 月は相場が底値傾向となるが、予想に反して相場は上昇傾向となった。気温も低下したことで鍋物商材の需要増加により、バラに加えカタロースの引き合いも強まっている。また、ひき材などの需要も高まっており、大貫の引き合いも強く相場底上げとなっている状況とも言える。一方、ロースやヒレについては荷動きが鈍く荷余り感があるが、冷凍する価格帯ではなく、一部では投げられるケースも出てきている。

これまで輸入フローゼンの荷動きは低調に推移していたものの、ベリーやスソ物中心に荷動きが出てきている。ギフト向けのシーズンは過ぎたが、月末月初の手当てが強まったものとみられる。

このような状況の中、12 月は出荷頭数の増加が予測される。例年通りの年末需要はあるものの、上場頭数に連動した相場展開になるものと予測する。

よって当市場の 12 月の加重平均は上物価格で 580 円前後中物価格は 560 円前後と予測する。

#### 豚 日別相場表(11月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>